

J **apanese text**

2016年 春/夏号 日本語編

アート

文＝住吉智恵、宮本ゆみ子

p.058

古都に映える写真表現
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2016

京都を舞台に開催される国際的な写真祭。普段は非公開の老舗商家や寺院など、趣のある歴史的建造物を使って展示されることもポイントだ。今年のテーマは「Circle of Life | いのちの環」。地球上のあらゆるものをつなぐ生命の大いなる循環を軸として、13の多様な写真プログラムが選ばれた。クリスチャン・サルデが静岡県下田市で顕微鏡撮影したプランクトンの写真や映像に、ダムタイプの高谷史郎のインスタレーション、音楽家・坂本龍一のサウンドが加わるコラボレーションは見逃せない。新星・古賀絵里子は彼女自身が宿した新たな生命をはじめ、心に映った身の回りの静物や自然を写し出す。古写真や大御所写真家の最新作も、古都の舞台ならではの輝きを放つだろう。(住吉智恵)

4月23日～5月22日
京都市内12カ所 (予定)
www.kyotographie.jp

(写真)

古賀絵里子《Tryadhvan》2015年 ©Eriko Koga
Christian Sardet CNRS / Tara Oceans / Plankton Chronicles
The central capsule of a radiolarian collected in the bay of
Villefranche-sur-Mer

軽やかなコンセプトチュアルアート
田中功起 共にいることの可能性、その試み

2013年のヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展・日本館の

展示で特別表彰され、2015年にはドイツ銀行のアーティスト・オブ・ザ・イヤーに選出されるなど、国際的な評価が高まる田中功起。現代の社会状況や既成概念に疑問を呈し、別の視点やあり方を模索する批評的な活動で注目される。本展ではヴェネチアの表彰作で取り上げた東日本大震災とその後の問題を踏まえて、共同体をテーマに新作を発表。広義の「移住」経験を持つ人々を募り、その共同生活の記録を作品化する。彼自身の約15年の活動歴、特に2009年のロサンゼルス移住以降から現在までつながる、集団による営みに対する問題意識にフォーカスする。領域を超えて、この世代の表現の主流のひとつとなった「新しいコンセプトチュアル」を標榜する作家の現在地に注目したい。(住吉智恵)

～5月15日
水戸芸術館現代美術ギャラリー
arttowermito.or.jp

(写真)

《一時的なスタディ：ワークショップ #4 共にいることの可能性、その配置》2015-2016年 制作風景 6日間の共同生活、ワークショップ、記録映像

「一枚の布」の普遍性
MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事

日本を代表する衣服デザイナー、三宅一生の約45年間の仕事を紹介する、かつてない規模の展覧会。90年代の画期的発明であるPLEATS PLEASEやA-POC、既成の枠にとらわれない自由な発想と最新のテクノロジーから生まれた素材づくり、そして、「一枚の布」と身体との関係性に生まれる革新性と着心地のよさを兼ね備えた「ゆとり」や「間」——。本展では、三宅が社内外の開発チームとともに粘り強いリサーチと実験を行い、時代や社会が求めるものを人間の身体の問題として捉えるアプローチを解明。衣服は流行とともに移ろう「ファッション」ではなく、生活と密接に結びつい

た普遍的な「デザイン」であるという独自の思想に肉薄する。

(住吉智恵)

3月16日～6月13日

国立新美術館

東京都港区六本木7-22-2

2016.miyakeissey.org

(写真)

左：ISSEY MIYAKE 《フライング・ソーサー Spring / Summer 1994》

1993年

右：132 5. ISSEY MIYAKE 《No. 10 スカート》2010年

写真=ともに宇土浩二

街なかから旅立つ芸術祭

あいちトリエンナーレ2016

虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅

現代美術だけでなくパフォーマンスアートにも力点を置く、日本最大規模の芸術祭のひとつ。今年は写真家・著述家で、映像人類学を研究する港 千尋^{みなと ちひろ}を芸術監督に迎え、未知への探求と創造を続ける人間の「旅」をテーマに展開する。美術館にとどまらず、古い問屋街など街中で広域に展開することも特徴だ。国内外から100組以上が参加する今回の見どころのひとつは、近年注目される女性アーティストたちの活躍。たとえば山城知佳子は出身地・沖縄の歴史や複雑な現況を、米軍基地や辺野古の海などを舞台に、自らの身体を通じた映像で表現してきた。虚実が交錯する神話的映像には強烈なインパクトがある。また山田うん率いるダンスカンパニー、Co. 山田うんは、音楽と絶妙に呼応する躍動的で重奏的な群舞の魅力を存分に発揮する。ともに自身の魂のルーツへ回帰する旅の表現となるだろう。(住吉智恵)

8月11日～10月23日

愛知芸術文化センター、名古屋美術館、名古屋・豊橋・岡崎市内の街なか

aichitriennale.jp

(写真)

山城知佳子《肉屋の女》2012年

Courtesy of the artist / Yumiko Chiba Associates

p.059

知られざる大阪の異才

生誕140年記念 上島鳳山と大阪の画家たち

—大阪の美人画は濃い！

1900年頃の大阪の画壇には、展覧会で入賞してこそ画家は評価されるという当時の風潮とは別の特殊な事情があった。それは、画家が展覧会への出品よりもむしろ後援者の求めに応じて作品を描くことが多かった、ということ。明治8(1875)年に岡山県に生まれた上島鳳山^{うえしまほうざん}もその一人で、独特の雰囲気漂う美人画を多く描いた。大阪の富豪・住友家主催の園遊会などの席上で揮毫したといわれる。彼の活動は公にはなりにくかったが、季節やつらいに合うように描かれた作品は、表具にも配慮がなされるなど、一般に展覧会に出品された作品とは違った価値観を示している。本展では鳳山の未公開作品を中心に、同時代の画家たちも紹介され、近代大阪における絵画制作の現場を垣間見られる。(宮本ゆみ子)

5月28日～7月24日

せんおくほくこかん
泉屋博物館

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

www.sen-oku.or.jp

(写真)

上島鳳山《十二月美人》(左より)四月、十二月

日本陶磁史のファンタジスタ

没後100年 宮川香山

天保13(1842)年、京都に生まれた宮川香山^{みやがわこうざん}は、父の後を

継いで陶工となり、25歳頃には幕府から御所献納の品を依頼されるほどの腕前となった。明治維新後には豪商・鈴木保兵衛の支援を受け、横浜に開窯。動物などの精巧な立体装飾を表面に施す手法「高浮彫たかうきぼり」を確立した。明治9(1876)年に開催されたフィラデルフィア万国博覧会などで、彼の繊細な作風が注目され、国内外で高い評価を得る。明治10年代半ば以降は、磁器に独特の透き通った色彩を施す作風に変化。この展覧会ではクロニクルな3部構成で、今年没後100年となる宮川香山の作風の変遷を味わえる。(宮本ゆみ子)

～4月17日

サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3F

suntory.jp/sma/

(写真)

初代宮川香山作《高浮彫牡丹二眠猫覚醒蓋付水指》 明治時代前期

19世紀後期 田邊哲人コレクション

奇想と繊細さが光る江戸絵画 生誕300年記念 若冲展

江戸時代中期の絵師・伊藤若冲じゅうちゅうが京都に生まれて、今年でちょうど300年。20代後半から絵を描き始め、初期は狩野派に学び、中国絵画の模写を行ってその腕を磨いていた。その後、実物をひたすら写生することで独自の世界を構築。画家の道に専念したのは40歳になってからと遅咲きだったが、写実的な要素とデザイン的な要素を巧みに融合させた若冲の画風は、現代にいたるまで多くのアーティストに影響を与えている。とりわけ身近な動植物を繊細なタッチで描いた作風に定評がある。本展は、初期から晩年の代表作が集結し、その粋を感じるとともに、彩色画や水墨画、木版画など、驚くべき技法を駆使して作り上げた作品の数々を堪能できる。(宮本ゆみ子)

4月22日～5月24日

東京都美術館

東京都台東区上野公園8-36

jakuchu2016.jp

(写真)

《牡丹・百合図》絹本着色 双幅 各121.4×70.3cm 京都・慈照寺

「悟りの境地」への道筋

臨済禅師1150年 白隠おんき禅師250年遠諱記念
禅一心をかたちに—

今から約1500年前に達磨大師によってインドから中国に伝えられたとされる「禅」。臨済義玄ぎげん禅師によって広まり、日本では中世に武家をはじめ天皇家や公家の帰依を受け、社会と文化に大きな影響を及ぼした。江戸時代には白隠おんき慧鶴えかく禅師などの活躍で民衆への普及も進んだ。特定の経典を持たないため、言葉や文字ではなく、師とのかかわりの中で自分の中の仏性を見だし悟りの境地に至るという形で受け継がれた「禅」は、欧米でも「ZEN」として受け入れられている。この展示では、臨済・黄檗おうぼく両宗15派が全面的に協力して、6000を超える寺院から選りすぐられた高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など多彩な名宝の数々が一堂に集められ、「禅」の真髄に触れる機会を提供する。(宮本ゆみ子)

4月12日～5月22日

京都国立博物館 平成知新館

京都市東山区茶屋町527

10月18日～11月27日

東京国立博物館 平成館

東京都台東区上野公園13-9

zen.exhn.jp

※会期中、京都展・東京展ともに作品の展示替えがあります。また京都展と東京展では作品内容が一部異なります。

(写真)

国宝《^{えかだんびず}慧可断臂図》雪舟等楊筆 室町時代 明応5（1496）年 愛知・
齊年寺

京都では5月3日～22日展示。東京での展示日程の詳細は未定。

エンタテインメント

文=内田伸一、岡崎 香、住吉智恵、宮本ゆみ子

p.060

日本最古の芝居小屋で江戸情緒を味わう 第32回 四国こんぴら歌舞伎大芝居

天保6年(1835)に建てられた、現存する日本最古の芝居小屋での、年に1度の恒例の歌舞伎興行。今回は、上方の名跡・四代目中村鴈治郎の襲名披露になっており、第一部では大坂を舞台にした喜劇『幸助餅』ほか、第二部では初代鴈治郎が選定したお家芸“玩辞楼十二曲”より、恋仲の遊女のために公金の封を切る男を描く『封印切』ほかを上演。第一部では、鴈治郎、坂田藤十郎、中村扇雀、片岡愛之助、市川中車ら袴姿の俳優たちが舞台上にずらりと並び、襲名披露の挨拶をする「口上」も見る事ができる。江戸時代の人々がそうしていたように、長い石段と多くの重要文化財を持つ海運の守り神・金刀比羅宮への参拝と、温泉や料理も楽しんで、春の讃岐の文化と歴史を堪能したい。(岡崎 香)

4月9日～24日

旧金毘羅大芝居(金丸座)
香川県仲多度郡琴平町乙1241
www.konpirakabuki.jp

(写真)

鴈治郎が演じる『封印切』の主人公・忠兵衛。
写真提供=松竹株式会社

三十一文字をめぐる熱い青春群像 ちはやふる 一上の句・下の句一

歌人・藤原定家が、飛鳥時代から鎌倉時代までの優れた歌

人100人の和歌を1首ずつ選んでまとめた「小倉百人一首」。本作は、1対1で向かい合って各歌の下の句のみが記された札を並べ、ランダムに読み上げられる歌と符合する札を相手よりも早く取り合う「競技かるた」に情熱を注ぐ現代の高校生達を描いたものだ。原作は、末次由紀の人気漫画。かるた名人を目指す新と、遠くへ越してしまった彼に会いたい一心で高校に競技かるた部をつくり、全国大会を目指す千早。そんな彼女に思いを寄せる太一、という幼なじみ3人を軸に、ダイナミックな競技かるたの魅力と、高校生たちの友情と恋と成長を描き出す。千早を演じるのは、若手最注目 of 広瀬すず。(岡崎 香)

3月19日より「上の句」編、4月29日より「下の句」編を2部作連続全国公開

chihayafuru-movie.com

(写真)

©2016 映画『ちはやふる』製作委員会 ©末次由紀/講談社

オペラで描く日本文学の美 日本オペラ協会公演『天守物語』

小説家・泉鏡花の戯曲『天守物語』は1979年に初めてオペラ化されて以来再演を重ね、日本オペラ協会では8回目の上演を迎える。異界のような城の最上階に棲む姫と、地上からきた美男の鷹匠をめぐる物語。美しい文体による怪奇かつ幻想的で耽美な世界が、即興性を基軸に、古典から現代までの語法を駆使して展開される。ジャズのリズムも取り入れた流麗な音楽と相まって、人気演目となっている。今回は荒井間佐登の新演出で、前回公演でも好評の山下一史がタクトを振る。美しく妖艶な富姫には新進ソプラノの角野圭奈子と佐藤路子を、また鷹匠・図書之助には実力派の人気テノール、中鉢 聡と迎 肇聡を起用。日本の美に満ちた舞台が繰り広げられる。(宮本ゆみ子)

3月5日、6日
 新国立劇場中劇場
 東京都渋谷区本町 1-1-1
www.nntt.jac.go.jp

(写真)

日本オペラ協会公演『天守物語』前回公演(2013年)より
 © 公益財団法人日本オペラ振興会

指揮者不在のオーケストラ

マロオケ2016

篠崎史紀のモーツァルト6大交響曲演奏会

「マロ」の愛称で親しまれる、NHK 交響楽団コンサートマスターの篠崎史紀。型にはまらないクラシック音楽の楽しさを啓蒙する彼は、2009年「巨大な室内楽」をコンセプトに特別オーケストラを結成。これまで九州各地で演奏してきたが、このほど東京での初公演が実現する。バイオリンパートは篠崎をはじめ、長原幸太(読売日本交響楽団)、水谷 晃(東京交響楽団)など、ほとんどがコンサートマスター。他パートも首席クラスのトップ奏者が勢揃い。この錚々たる顔ぶれを、ミスターコンマス・マロがまとめ上げる。指揮者不在のアンサンブルで、モーツァルトの交響曲第25番、第36番「リンツ」、第38番「プラハ」、第39番、第40番、第41番「ジュピター」を演奏する。(宮本ゆみ子)

5月5日
 サントリーホール
 東京都港区赤坂1-13-1
www.suntory.com/culture-sports/suntoryhall/

p.061

アジア舞台芸術の才能が融合

ふじのくにむせかい演劇祭 2016

『三代目、りちゃあど』

シェイクスピアの史劇『リチャード三世』を題材に、野田秀

樹が1990年に自身の劇団に書き下ろした、残虐な王を巡る知的なドタバタ法廷劇『三代目、りちゃあど』。この傑作戯曲を、多様な文化・伝統を現代的な感覚で融合するシンガポールのオン・ケンセンが演出し、静岡県舞台芸術センター主催の「ふじのくにむせかい演劇祭 2016」で世界初上演する。出演陣は、歌舞伎俳優・中村吉太郎、狂言師・茂山童司、元宝塚歌劇団の久世星佳らに、シンガポールとインドネシアの女優、パリの影絵芝居俳優を加えた実に多彩な顔ぶれ。日本語、英語、インドネシア語で上演(日英語の字幕付き)。11月～12月には日本5都市での巡演も予定されている。(岡崎 香)

4月29日、30日、5月1日
 静岡芸術劇場 静岡市駿河区池田79-4
www.spac.or.jp

(写真)

ふじのくにむせかい演劇祭2012でも上演された、オン・ケンセン演出の『キリング・フィールドを越えて』 写真=TheatreWorks (Singapore)

古典バレエの大胆な脚色

Noism1×Noism2

劇的舞踊『ラ・バヤデール—幻の国』

ネザールランド・ダンス・シアター (NDT) をはじめ欧州有数のダンスカンパニーで活躍した演出・振付家、舞踊家の金森 穰率いるノイズムによる、コンテンポラリーダンスに演劇的要素を取り入れた「劇的舞踊」シリーズの第3弾。劇作家・演出家の平田オリザに脚本を依頼。古代インドの舞姫と戦士の恋を描いたエキゾチックなバレエ『ラ・バヤデール』を多角的な視点で大胆に脚色、まったく新しい作品として上演する。舞台を20世紀前半のある架空の国に設定。民族意識や政治的思惑が複雑に入り乱れ、個人の意志や生命さえ、大きな時代のうねりに翻弄され重みを失った時代の中で「共生」とは何かを掘り下げる。カンパニーの要である舞踊家、井関佐和子の新境地に期待が高まる。(住吉智恵)

6月17日～19日 リューとびあ 新潟市民芸術文化会館

7月1日～3日 KAAT神奈川芸術劇場

ほか兵庫、愛知、静岡で公演予定

noism.jp

(写真)

劇的舞踊『ホフマン物語』(2010年)より 写真=篠山紀信

京都発・個性派バンドの時間旅行 くるり 20th ANNIVERSARY『NOW AND THEN Vol.3』

京都で結成されたロックバンドが、20周年にあたり過去のアルバムを「再現」するコンセプトなライブツアー。第3弾の今回は、2003年の5thアルバム『アンテナ』が選ばれた。初期のフォーキーかつ実験的なサウンドから、テクノ、エレクトロニカ、またクラシックから民謡、エスノミュージックまで取り入れて創作の旅を続ける彼ら。夜行バスで向かう早朝の東京を歌った流麗な「グッドモーニング」で始まる『アンテナ』は比較的直球なバンドサウンドだ。それゆえか、彼らのエッセンシャルな魅力が刻まれた名盤といえる。以降十数年、さまざまな変遷を経たバンドが、今この一枚をどう鳴らすのか。ファンも初体験者も、各々の音楽的出会いを楽しめそうだ。(内田伸一)

5月7日～31日

全国8都市公演(香川、福岡、広島、大阪、京都、愛知、宮城、神奈川)

チケット一般発売:3月5日～

※関東地域の公演は5月30日、31日、神奈川県民ホール

予約: Hot Stuff Promotion Tel. 03-5720-9999

www.quruli.net

歌舞伎で見る人気漫画の世界観 スーパー歌舞伎II『ワンピース』

古典歌舞伎の演出に現代的な視点を融合させ、壮大な物語

をスペクタクルに見せる「スーパー歌舞伎II」が、世界的な人気を誇る尾田栄一郎の漫画『ONE PIECE』とコラボレーション。昨秋の東京初演大成功を受け、大阪と福岡にお目見えする。宙乗りや、水を使った大立ち回りといった歌舞伎本来の手法に、最新の映像技術を組み合わせ、海賊王を目指すルフィと仲間たちが大秘宝を求めて冒険を繰り広げる物語から、海軍との戦闘で仲間と散り散りになったルフィが、海軍に捕まった兄の救出に向かう「頂上戦争編」をけれん味たっぷりに展開。スーパー歌舞伎IIを牽引し、演出にも参加する市川猿之助が、早替わりでルフィや女帝ハンコックなどの3役を演じる。(岡崎 香)

3月1日～25日

大阪松竹座

大阪市中央区道頓堀 1-9-19

4月2日～26日

博多座

福岡市博多区下川端町 2-1

www.onepiece-kabuki.com

(写真)

©松竹株式会社・スーパー歌舞伎II『ワンピース』パートナーズ